

# 第1部 総論

第1章 策定の趣旨

第2章 構成と期間

第3章 上山市の人口について



# 第1部 総論

## 第1章 策定の趣旨

本市は、平成28年度に第7次上山市振興計画を策定し、目指す将来都市像を「また来たくなるまち ずっと居たいまち ～クアオルト かみのやま～」と掲げ、その目標達成に向けて諸施策を総合的に推進してきました。

この間、各分野にわたる取組の中で、東北中央自動車道の高速交通網やアクセス道路網の整備などの基盤整備に加え、駅前の「かみのやま温泉観光案内所」の建設、カミン再生整備事業や新たな工業団地の着手など、これからの市政発展の礎となる新しい事業もスタートしました。

一方、少子高齢化・人口減少については依然として歯止めがかかっておらず、地域の活力低下や厳しい財政状況が続くと懸念されます。

そのような中、この度、前期基本計画の最終年度を迎え、前期基本計画の成果と課題の整理を行うとともに、市民の意向を把握し、各施策においてもさらなる深化を図りながら、市民一人ひとりが活躍できる「きらりと光るかみのやま」を実現するため、本市のまちづくりを総合的・計画的に推進する後期基本計画を、ここに策定するものです。

## 第2章 構成と期間

### 1 構成

第7次上山市振興計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」によって構成されています。

#### (1) 基本構想

まちづくりの目標となる将来都市像や基本的な方向性、役割分担について示します。

市民、地域・団体、事業者と行政がそれぞれ役割を果たすことで達成される計画とします。

#### (2) 基本計画

基本構想で目標としたまちづくりを実現するため、行政が役割を果たしていくべき手段を施策として示します。

#### (3) 実施計画

基本計画を達成するための手段を、財政状況や社会情勢を加味し事業として示します。

## 2 期間

基本構想は、平成28年度から令和5年度までの8年間とします。

基本計画は、基本構想と同様に8年間とし、それぞれ4年間で前期・後期計画とします。

また、施策の進捗状況、財政状況や社会情勢などを考慮し、計画期間中であっても柔軟に見直しを図ります。

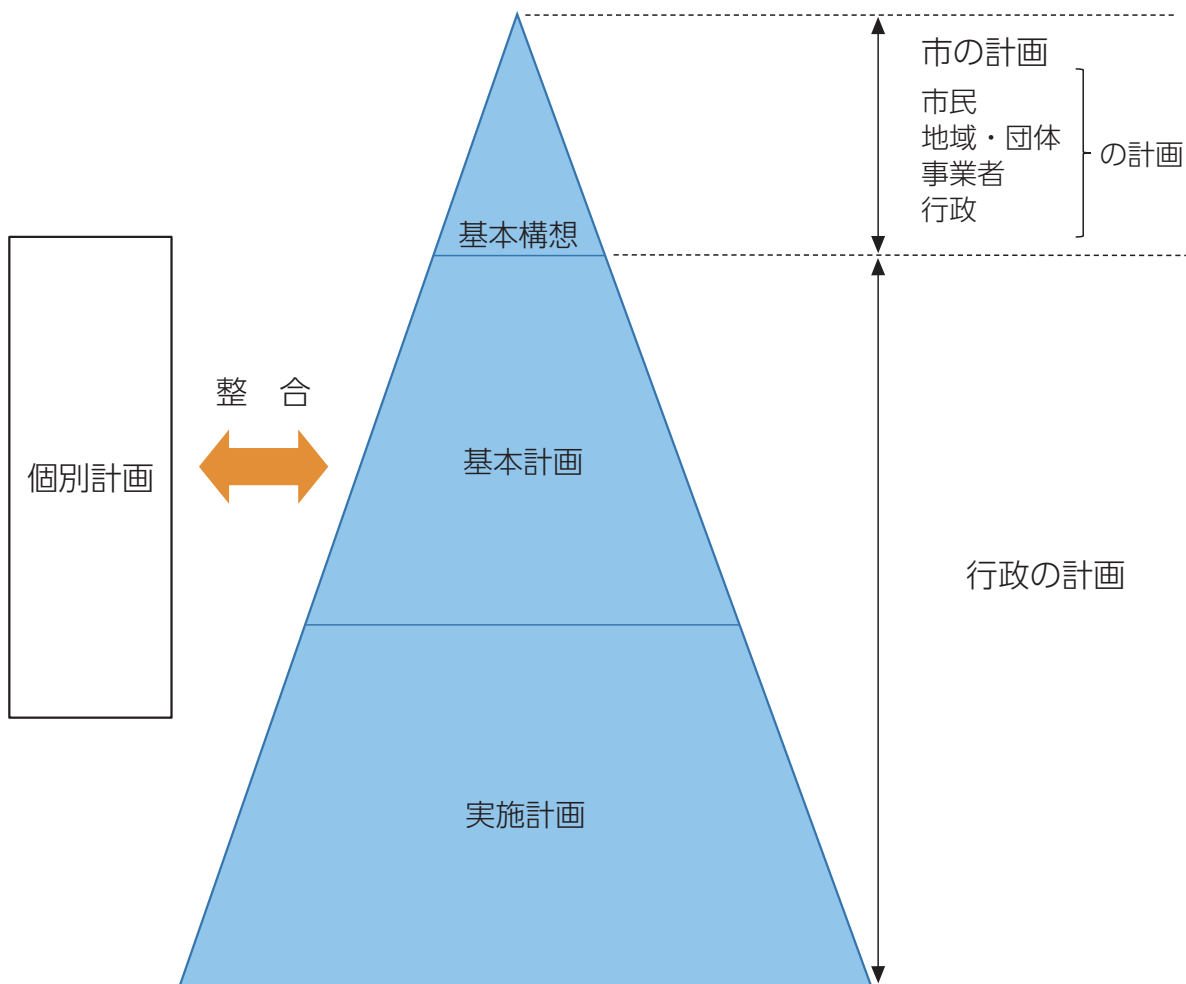
基本計画を実現するための実施計画は、財政状況や社会情勢、市民ニーズなどを考慮し、毎年度見直しを図ります。

### ■計画の期間

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5			
基本構想		平成28年度～令和5年度 (8年間)										
基本計画		平成28年度～令和元年度 (4年間)				令和2年度～5年度 (4年間)						
実施計画		①平成28年度～令和元年度 (4年間)			②平成29年度～令和元年度 (3年間)		⑤令和2年度～5年度 (4年間)			⑥令和3年度～5年度 (3年間)		
				③平成30年度～令和元年度 (2年間)		④令和元年度～5年度 (5年間)					⑦令和4年度～5年度 (2年間)	

### 3 個別計画との関係

各施策を実施する上で策定する個別計画については、原則として基本計画と整合して策定します。



### 第3章 上山市の人口について

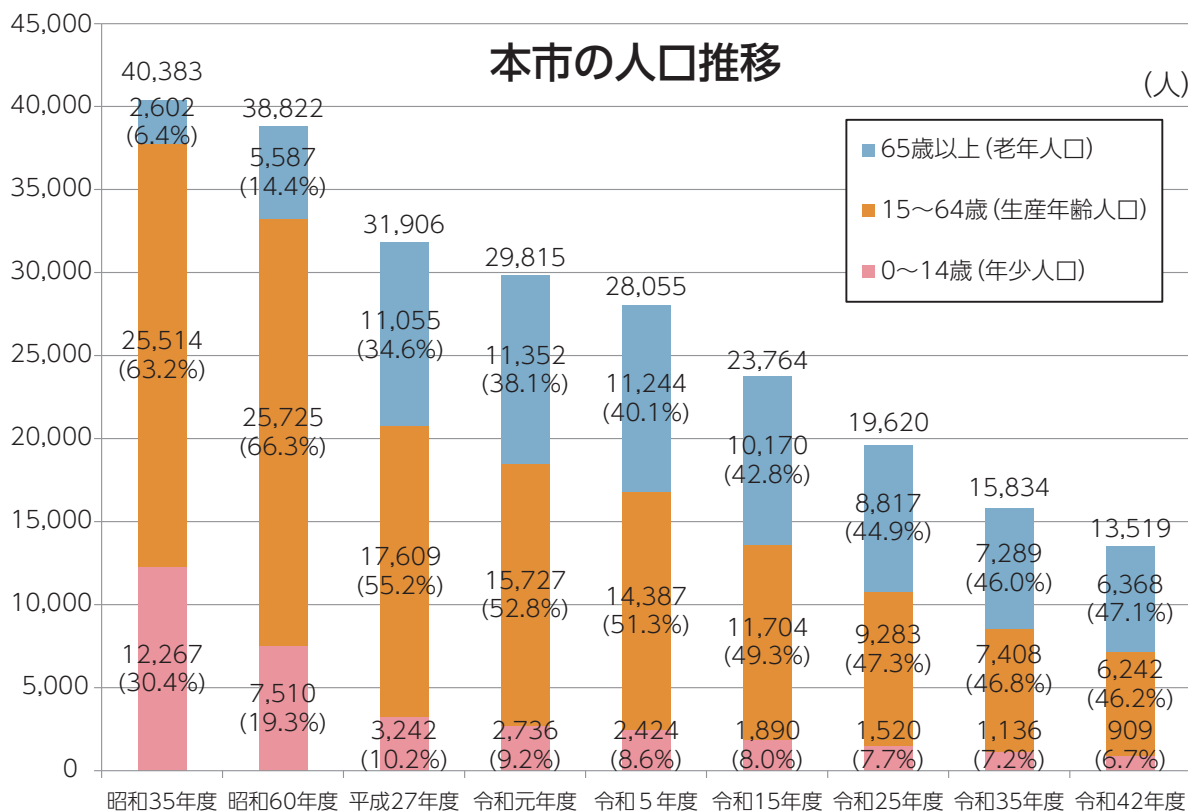
わが国の総人口は総務省統計局によると、1億2,694万人（平成27年8月1日時点）で、平成16年をピークに減少し続けておりますが、65歳以上の老年人口は、3,372万人を超え超高齢社会に突入しています。老年人口が増加する一方、年少人口や生産年齢人口が減少し、今後も少子高齢化が進むと予想されます。

本市においても、総人口は昭和35年の40,383人をピークとして、若干の減少はありながらも、いわゆるバブル経済期（昭和60年頃～平成初期頃）までは、ほぼ横ばいで推移してきましたが、昭和60年頃から年少人口と生産年齢人口が減少し始め、その後総人口の減少が始まりました。

また、日本全体の高齢化率は21%を超える超高齢社会となりましたが、本市においてはさらに10ポイントほど上回る高齢化率となっています。

本市においては今後、年少人口や生産年齢人口に加え、老年人口も早晩に微増から減少に向かうと推測され、人口減少はさらに加速すると見込まれます。

なお、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和5年の人口は、28,055人となることが見込まれています。



出典：国勢調査、住民基本台帳人口、国立社会保障・人口問題研究所資料